

新幹線の技でチェロ

山下工業所が市に寄贈

市制75周年、新幹線50周年祝い

下松

新幹線の先頭部分をはじめ高い技術が必要な鉄道車両の板金加工を手が



アルミ合金製チェロを囲む左から藤井さん、山下社長、井川市長

けている下松市東豊井の山下工業所（山下竜登社長）が二十四日、市制七十五周年を記念して市にハンマーの板金打ち出し

技術を応用して作ったアルミ合金製のチェロを寄贈した。

同社は素材をハンマーでたたいて微妙な曲線を

作り出す板金打ち出しの技術を知ってもらおうと弦楽器づくりを始めて話題を集め、この技術を駆使してこれまでにバイオリン六丁とチェロ五台、ビオラ一丁を製作。マグネシウム合金製のバイオリン一丁以外はすべてアルミ合金で製造している。プロがコンサートでも使うなど音色もそんななく、技術の高さで注目され、ここ数年は打ち出し板金技術を学びたいと若い人材の就職希望が増えており、現在は六人の若手社員が技術の習得に頑張っているという。

同社が今回、市に贈ったチェロは三番目に製造したもので、名前は「のぞみ」。高さ一・三メートル、重さは七・二キログラム。二〇一〇年（H22）に「現代の名工」に選ばれ、一二年（H

24）に黄綬褒章を受章した同社技術顧問の藤井洋征さん（69）が〇八年（H20）十月に作った。

チェロは六枚の板をハンマーで形づくって溶接しており、藤井さんは「人間の手では作り出せない微妙な曲線を見てほしい」と話していた。

市長は「これからも世界に誇れる立派なものを作って下さい」とお礼を述べ、山下社長（50）は「市制七十五周年と新幹線操業五十周年の節目の年に地元の市に贈り物ができてうれしい。これからも技術を磨いて頑張ります」と話していた。

チェロはこの日、市役所一階ロビーの特製のケースに入れられ、常時展示している。問い合わせは市総務課（08333・451807）へ。